

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭		
所在地	旭川市永山4条22丁目4-12		
自己評価作成日	令和7年2月15日	評価結果市町村受理日	令和7年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は、近くのスーパーから購入、施設内にて調理して提供することで、馴染の食材・馴染の料理を召し上がって頂いています。また、職員が調理している為、入居者の方一人ひとりの好みや食事形態に応じた食事提供が行えています。

浴室は、機械浴の浴室があり、桧葉づくりとなっており、一般の浴室と比べると広く、浴槽をまたぐのが困難な方や車椅子の方でもゆっくりと浴槽に浸かって頂けるような設えとなっています。

外出レクは、恒例の夏祭り、敬老会の他、一時開催を見合わせていた動物園見学も再開でき、室内レクも合わせて1か月に1回はレクを行えています。毎月のレクでは、気分転換を図って頂いているようで、普段とは違うとも喜んで下さっているような表情を見せて頂いています。

永山亭での生活は、入居者の皆さんにとって日常であることを共有し、日常とは何かを考え、自宅とは違う環境の中で、その方にとっての普段や普通を作って頂き、過不足の無いピンポイントの支援を継続し、できる事を続けて頂ける様に支援しています。また、入居者の皆さんが、何を考え、何が伝えたくて、どうして欲しいのかに寄り添える事も大切だと考えております。グループホームは、地域に対して、認知症についての普及啓発や相談窓口としての役割がありますので、認知症サポーター養成講座の開催協力や圏域独自の活動も合わせて行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 永山亭」はJR永山駅から徒歩で15分程の静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。近隣には旭川大学や幼稚園、バス停やスーパーマーケット、病院もあり生活の利便性が高い。居間や食堂は開放感のある広々とした造りで、利用者と一緒に制作した季節の装飾や塗り絵などが飾られている。数種類のソファや椅子もあり、利用者が好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。管理者は、年間を通して計画的に研修を行うとともに各職員を講師とした内部研修を実施するなど、職員の育成と資質向上に力を注いでいる。また、普段から職員の意見や提案を聞き取り、ケアや業務改善に活かして働きやすい職場環境の整備に努めている。地域包括支援センターの依頼で管理者が認知症サポーター養成講座の講師をするなど、日頃から行政と協力関係を築きながら連携を深めている。感染症の流行により地域行事は少なくなっているが、町内会長と密に連絡を取りながら地域に根差した運営に取り組んでいる。ケアマネジメントの面では、利用者とのコミュニケーションや会話の中から情報を収集して日々の記録にまとめ、毎月「支援経過記録」を作成して介護計画に反映させている。全職員が面会時などに各利用者の状況を細かく伝えており、家族との信頼関係も深められているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念のほかに、グループホームが持つ地域での役割や機能、働き等についても研修などを通して周知し、共有している。	ケア理念の「自由な生活の継続」という文言に、外に開かれた地域交流という思いが込められている。事務所や各ユニットに掲示し、新人研修や全体研修で地域密着型サービスを含めたグループホームの役割について説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の活動はまだ再開していないが、町内会長が向かいの方であり、運営推進会議の委員として参加いただけている事で、町内会とのつながりが出来ている。	地域行事はほとんど無くなっているが、散歩で近隣住民と挨拶をしたり、幼稚園から発表会のDVDを届けてもらい利用者と一緒に鑑賞している。認知症の方と地域住民などをつなぐ認知症の啓発イベント「RUN伴」に参加して沿道で応援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協働でサポーター養成講座の開催や、同じ圏域の他施設と地域独自の研修を企画し、開催することで普及啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所開催の回数は増えているが、いまだに感染症の発生などで文章開催となる事も多い。事業所開催の時には、その場でコメントや意見を頂けるが、文章開催の場合は一方的なものにならないように、文章の送付後にコメントを頂くようにしている。	地域包括支援センターや町内会長、近隣施設関係者なども参加して2か月ごとに開催している。うち2回は感染症の流行で書面会議を行っている。家族の参加は得られていない。テーマにそって外部講師による勉強会を検討しているが、感染症の流行により講師の依頼までには至っていない。	テーマを設定して会議案内に記載し、参加できない家族の質問や意見なども聞き取り、会議に反映させるよう期待したい。また、テーマにそった簡単な資料も議事録と一緒に送るよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは定期的に連絡や打ち合わせを行い、研修会の企画や困難事例の共有などを密に行っている。	市役所はメールや電話で連絡することが多くなったが、家族の代行で生活保護の申請手続きなどで訪問することがある。地域包括支援センターの依頼を受けて、管理者が認知症サポーター養成講座の講師をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を基に、委員会の設置や研修を開催し、身体拘束に対しての知識や身体拘束を行わなくても済む方法の検討等を行っている。また、認知症が受ける影響についても内容に盛り込み、身体拘束を行わないための環境を整備している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備して年2回勉強会を行い、禁止行為11項目も確認している。委員会は3か月ごとに開催し、議事録で全職員が情報共有している。玄関の鍵は夜間のみ施錠し、利用者の様子を見ながら閉塞感を与えないように柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、指針を整備し、指針に則った研修を行う事で周知している。また、権利擁護も含めた内容としている。その他、業務量の調整を行うなどして、ストレスの緩和を図り、少し余裕をもって業務に対応できるように配慮している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止のための研修にて、権利擁護を含めた内容とし、周知を図っている。また、後見人や保佐人とのやり取りの中で、つながりや学ぶ機会を確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、見学时にある程度説明を行い、疑義が残らないように対応している。また、面会時や連絡の折に聞き取りを行い、不安や疑問が解消出来る機会を持つよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の会議内容と議事録を全家族に送付し、面会時などに聞き取りを行っている。また、ご家族からの意見や要望があった際には運営推進会議を通じて報告している。	面会時や電話で利用者の様子を伝え、家族の意見や要望などは「面会記録」に個別に記録している。毎月、写真を入れた個別の「永山亭通信」を家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは、中々個々人の意見を聞けない場面が多い為、業務の合間など、話せる機会を設け、聞き取りを行っている。聞き取った内容については、代表と共有し、業務の適正化などに活かしている。	ミーティングで業務の適正化について話し合い、職員の意見を反映させて業務の見直しを行っている。管理者は普段から職員と個別に話す機会を作り、意見や提案が言いやすい環境を整備している。職員はお便りや各種書類の作成などを担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況を個別に把握し、その状況を鑑みながらの勤務表を作成し、合意形成に務めている。また、向上心については、知識・技術の向上を目的とした研修や聞き取りを行い、図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り、その時の状況や困りごとなどに則した内容とするようにしている。また、疑問や困難さが発生した場合などに、気兼ねなく聞ける体制を構築し、なるべく早く解決できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、そこまで多くはないが、地域包括支援センター協働の下、地域のグループホームやその他の施設などとの研修に参加する機会を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、環境になれ、生活のリズムをつかんで頂くことが重要と考え、職員は迎える側であることを忘れずに、不安な気持ちに対して寄り添えるように支援している。また、徐々に馴染の関係が構築できるように働きかけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から、不安に思っていることや要望などを聞き取り、施設として出来る事、出来ない事について共有を図る事で、入居を決めるに当たっての齟齬が生まれないようにしている。また、出来る事・出来ない事を明確にすることで、信頼関係の構築にも繋がっていると考える、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネやご本人・ご家族からの聞き取りを行い把握している。また、その時に把握したものと、少し共に生活してから把握したものについて、ピンポイントの支援が行えるように対応を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員の間には、立場や役割の違いはあれど、上下・優劣などの差は存在しない事をミーティングや申し送り時などに共有し、共に過ごす者として不都合が起こらないように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の事業所に対する考え方(見てもらう側と捉えてしまうご家族なのか、要求は全て聞き入れられると思っているご家族なのか等)によって、対応を検討し、相互に意見がしやすい環境の整備に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、特段の面会制限は設けておらず、ご家族の面会は少し増えてきているが、友人知人の面会あまり見られていない。かかりつけの病院との関係性継続の為、通院先を変更しないなどの対応は続けている。	近所に住んでいた知人が訪ねて来たり電話が来る方もいる。家族と自宅に帰ったり、法要に出席した利用者もいる。家族へのメッセージカードの作成を職員が支援したこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起こりそうな場合や、トラブルに発展しそうなときには、仲介を行うようにしているが、入居者同士の距離感の中でコミュニケーションを図られている時などは、むやみに仲介せず、見守り程度にて支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された際に、直接ご本人についての支援を行ったことはないが、市役所等の申請や手続きについて、相談に応じ、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好みや馴染を活かした支援が行えるように、会話できない状況で入居された方については、ご家族や表情から把握を行い、会話できる方については、本人とのコミュニケーションの中から把握し支援に活かしている。	会話や仕草、表情、家族からの情報などを基に思いや意向を把握している。センター方式シート(B-3)は、毎回職員が交代してそれぞれの視点で利用者の状況を捉えて記録し、6か月ごとに更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに、ご家族からの聞き取りや、担当ケアマネジャー等に情報やエピソード等の提供をして頂ける様に依頼し、その方の人となりが把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、共に生活をしながら少しずつ把握し、困難な状況や躓きなどが見られた時には、ピンポイントで解消できるように支援している。また、行事等普段以外の場面で見られる一面などからも把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援経過やセンター方式などの記入を全職員で行い、気づきのポイントを共有することにより、日々のケアの中で気づきが生まれ、申し送り時等に自主的に意見が出ている。その意見を試みてみることで反映し、結果を共有している。	担当職員が記録した毎月の「支援経過記録」を基に、計画作成担当者を中心に6か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は、サービス内容にそって本人の様子や言葉を記載し「支援経過記録」に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、ケアプランを反映した記入内容となるように共有し、実践している。ケアプランの見直し時には、アセスメント時に介護記録、支援経過、センター方式などを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは、お互いに合意できる内容とし、ある程度の柔軟性の下、出来る事と出来ない事を明確にすることで、齟齬がなくなり、良好な関係性の構築が図れると考え、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターが発行している地域資源マップなどを活用しながら、情報収集に努めている。また、地域の事業所などの集まりに参加し、必要な状況があれば、相談できる関係性の構築に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が継続できる方については、出来るだけ今までの主治医に診て頂ける様に支援している。また、受診が困難な状況になっても、往診が受けられるように体制を敷いている。	協力医療機関による定期往診がある。かかりつけ医を継続している利用者もいる。専門医やかかりつけ医の通院も事業所で支援し、健康状態を詳しく伝えている。往診と受診は別用紙で個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、健康観察や健康相談、受診への付き添いや往診医とのやり取りを行っている。また、夜間帯の緊急時などにも対応できる状況を構築し、入居者・職員が安心できる体制を敷いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時・退院時には相談員や看護師と連絡を密にとり、状況や情報の共有を図っている。また、退院時の受け入れられる状態についてご家族と共有し、病院に伝える事で、退院に対しての齟齬が起らないように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期についてマニュアルなどを用いて説明するが、状況の変化毎に心情や環境が変わると考え、都度聞き取りを行いながら、丁寧かつ齟齬が無いように支援している。また、重度化した際に、今後考えられる状況について、文章を取り交わし、情報の共有に努めている。	利用開始時に「重度化・看取りに関する指針」にそって、事業所の対応を説明している。体調変化に応じて今後考えられる状態変化について説明し、主治医と家族、事業所で話し合い、希望に応じて看取りも実施している。近年看取りは無いが、毎年看取り研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルの整備や救急車を呼ぶ目安を共有するなどし、体制の構築や実際に起こった場合の責任の所在の明確化・対応の明確化を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した避難訓練のほか、自然災害を想定した訓練を行い、マニュアルを作成し実際に起こった場合に備えている。	昼夜の火災を想定して年2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得ている。地域住民の参加も得ている。地震対応について机上訓練を行い、ケア別の対応についても確認している。救命講習は計画的に実施している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	立場や役割の違いはあれど、共に生活する存在として、関わりを持つことが大切であることを共有し、支援することで、確保している。	定期的に接遇に関する研修を行っている。気になる点があった場合は管理者がその都度注意している。個人記録書類も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択すること自体がストレスになってしまう方は、観察を行いながら行動などを促しているが、それ以外の方については、自己決定を促すような声かけを行い、観察することで、顕在的・潜在的な希望について把握できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に共に生活する中で、徐々にペースやリズムが把握できるようになる事を全職員で共有し、何を思って、何が伝えたくて、どうして欲しいのかを念頭に、支援を展開することで、寄り添った支援が行えるように努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色々伝えられる状況から関わりが持て、会話の中から好みが出て、重度化したときでもその好みで職員の手で継続できる状況が理想的ではあるが、一人一人の状況に応じ、ご家族やその方を知っている周りの方々から聞き取りを行い支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、自力摂取出来ることがおいしく食べられる要素の大切な部分を占めていると考え、共有し、出来るだけ自力摂取して頂ける様に支援している。	管理者と職員が作成した献立は数年ごとに保健所の管理栄養士の指導を受け、調理担当職員が手作りしている。寿司の出前やテイクアウトなども取り入れ、誕生日にはケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を摂る事は、生命維持活動だけの行為ではなく、楽しみや快さにもつながる行為であることや、おいしく食事をするためには、出来るだけ自力での摂取が望ましい事を共有し、対応している。また、採血結果などから、栄養状態の把握・状況に応じた主治医との相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には、口腔保清の他、乾燥などにも注意しながら、適宜用具や用品を検討し支援を行っている。また、嫌がられる方には、無理強いをせず、訪問歯科医師等に助言を求めながら支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパンやテープ止めおむつへの切り替えは、一方向的な物ではなく、使用したとしても、対応の確立や失禁などの状況に応じて、布の下着への変更等を検討し、支援している。	自立している方も含め、利用者全員の排泄パターンを把握している。入居後は排泄の失敗の原因を検討し、適切な事前誘導で日中は全員がトイレでの排泄が可能となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状況やリズムに合わせてながら、日中帯の活動量の見直し、乳製品をとって頂くなどの支援を行いながら、主治医とも相談し、適宜緩下剤などの調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員の配置上、毎日好きな時間に入浴に対応することは困難だが、決まった入浴日や時間の中で、一人ひとりのペースに合わせた入浴が出来るように支援している。また、タイミングが合わなかった時には、日にちをずらすなどの対応をしている。	機械浴、普通浴と曜日は設定しているが、柔軟に対応している。利用者全員が湯船に浸かることができ、入浴習慣に合わせて好みの湯加減で、好きなシャンプーや入浴剤などを使用している。同性介助にも対応し、職員との会話も楽しい時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に消灯などの時間は設けず、自室にて思いのまま生活して頂ける様に配慮している。また、巡回時にも、覗かれるのが嫌な方については、音を聞くなどし、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、処方簿を目に付くところに配置し、日ごろから目が通せるようにしている。また、薬の変更などがあつた際には、申し送りノートに記入し、申し送る事で、周知している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は、誰かが創出する物ではなく、自ら作り選択することが大切であることを周知し、対応している。また、外出が少しずつできるようになってきている為、気分転換に活かしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望があった際には、外出できるように配慮しており、付き添いで外出して頂いている。また、ご家族からの要望があった際にも、最近の様子の共有を図り、気を付けて頂くこと等を伝えるなど、支援している。	季節のよい時期は事業所周辺や近隣の公園に散歩に出かけている。ドライブ行事では動物園や道の駅、近郊のキャンプ場に出かけるなど気分転換を図っている。通院時に自宅前を通るなどの支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行っていたときは、支払いなどをして頂いていた。現在、希望される方がおらず、一緒に買い物に出かけることはないが、買い物の希望などがあった際は、買って来たものとレシートを渡し、お金の支払いを受ける等している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には対応している。また、年賀状を一緒に書き、返信があった年賀状を見て喜ばれたことがあった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快い・不快等の刺激の種類や設え等について、接遇の研修を通して共有を図り、環境の整備に努めている。また、行事の後には、写真を飾る、季節が感じられるような飾りつけを行うなど、生活の場と思えるように配慮している。	冷暖房が完備された食堂兼リビングは広く、窓からの光も明るい。居間にはソファや各利用者のお気に入りの椅子が置かれ、思い思いに寛ぐことができる。壁には職員と一緒に制作した季節飾りが掲示されている。台所から利用者の見守りが可能な造りで、居心地よく安心して過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいすを配置し、好きな居場所を自ら選んで頂ける様に配慮している。また、気の合う入居者同士が集まり、会話している様子が日常的にみられている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は、ご家族協力の下、なるべく自宅の再現や馴染の物を配置して頂くなどし、環境の整備を行っている。また、身体状況に応じ、過ごしやすい環境は変化する事を共有し、都度検討を行っている。	居室入り口には暖簾が掛けられ、自室が分かりやすくなっており、暖簾によってプライバシーも保たれている。約8畳の室内にはベッド、クローゼット、洗面台があり、使い慣れた家具や小物類、仏壇、写真などがあり、落ち着いて過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	支援の過不足が無いように配慮し、行動の細分化を行いながら、ピンポイントの支援が行えるように研修などを通じて共有を図ったうえで、環境の整備や見直しを適宜行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭		
所在地	旭川市永山4条22丁目4-12		
自己評価作成日	令和7年2月15日	評価結果市町村受理日	令和7年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は、近くのスーパーから購入、施設内にて調理して提供することで、馴染の食材・馴染の料理を召し上がって頂いています。また、職員が調理している為、入居者の方一人ひとりの好みや食事形態に応じた食事提供が行えています。

浴室は、機械浴の浴室があり、桧葉づくりとなっており、一般の浴室と比べると広く、浴槽をまたぐのが困難な方や車椅子の方でもゆっくりと浴槽に浸かって頂けるような設えとなっています。

外出レクは、恒例の夏祭り、敬老会の他、一時開催を見合わせていた動物園見学も再開でき、室内レクも合わせて1か月に1回はレクを行えています。毎月のレクでは、気分転換を図って頂いているようで、普段とは違っても喜んで下さっているような表情を見せて頂いています。

永山亭での生活は、入居者の皆さんにとって日常であることを共有し、日常とは何かを考え、自宅とは違う環境の中で、その方にとっての普段や普通を作って頂き、過不足の無いピンポイントの支援を継続し、できる事を続けて頂ける様に支援しています。また、入居者の皆さんが、何を考え、何が伝えたくて、どうして欲しいのかに寄り添える事も大切だと考えております。グループホームは、地域に対して、認知症についての普及啓発や相談窓口としての役割がありますので、認知症サポーター養成講座の開催協力や圏域独自の活動も合わせて行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)			
---------------------------------	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念のほかに、グループホームが持つ地域での役割や機能、働き等についても研修などを通して周知し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の活動はまだ再開していないが、町内会長が向かいの方であり、運営推進会議の委員として参加いただけている事で、町内会とのつながりが出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協働でサポーター養成講座の開催や、同じ圏域の他施設と地域独自の研修を企画し、開催することで普及啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所開催の回数は増えているが、いまだに感染症の発生などで文章開催となる事も多い。事業所開催の時には、その場でコメントや意見を頂けるが、文章開催の場合は一方的なものとならないように、文章の送付後にコメントを頂くようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは定期的に連絡や打ち合わせを行い、研修会の企画や困難事例の共有などを密に行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を基に、委員会の設置や研修を開催し、身体拘束に対しての知識や身体拘束を行わなくても済む方法の検討等を行っている。また、認知症が受ける影響についても内容に盛り込み、身体拘束を行わないための環境を整備している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、指針を整備し、指針に則った研修を行う事で周知している。また、権利擁護も含めた内容としている。その他、業務量の調整を行うなどして、ストレスの緩和を図り、少し余裕をもって業務に対応できるように配慮している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止のための研修にて、権利擁護を含めた内容とし、周知を図っている。また、後見人や保佐人とのやり取りの中で、つながりや学ぶ機会を確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、見学时にある程度説明を行い、疑義が残らないように対応している。また、面会時や連絡の折に聞き取りを行い、不安や疑問が解消出来る機会を持つよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の会議内容と議事録を全家族に送付し、面会時などに聞き取りを行っている。また、ご家族からの意見や要望があった際には運営推進会議を通じて報告している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは、中々個々人の意見を聞けない場面が多い為、業務の合間など、話せる機会を設け、聞き取りを行っている。聞き取った内容については、代表と共有し、業務の適正化などに活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況を個別に把握し、その状況を鑑みながらの勤務表を作成し、合意形成に務めている。また、向上心については、知識・技術の向上を目的とした研修や聞き取りを行い、図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り、その時の状況や困りごとなどに則した内容とするようにしている。また、疑問や困難が発生した場合などに、気兼ねなく聞ける体制を構築し、なるべく早く解決できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、そこまで多くはないが、地域包括支援センター協働の下、地域のグループホームやその他の施設などとの研修に参加する機会を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、環境になれ、生活のリズムをつかんで頂くことが重要と考え、職員は迎える側であることを忘れずに、不安な気持ちに対して寄り添えるように支援している。また、徐々に馴染の関係が構築できるように働きかけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から、抱えている不安や困難さの聞き取りや施設に求める事を聞き取り、できる事・出来ない事を伝える事で、齟齬がないように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネやご本人・ご家族からの聞き取りを行い把握している。また、その時に把握したものと、少し共に生活してから把握したものについて、ピンポイントの支援が行えるように対応を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員の間には、立場や役割の違いはあれど、上下・優劣などの差は存在しない事をミーティングや申し送り時などに共有し、共に過ごす者として不都合が起こらないように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の事業所に対する考え方(見てもらう側と捉えてしまうご家族なのか、要求は全て聞き入れられると思っているご家族なのか等)によって、対応を検討し、相互に意見がしやすい環境の整備に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、特段の面会制限は設けておらず、ご家族の面会は少し増えてきているが、友人知人の面会あまり見られていない。かかりつけの病院との関係性継続の為、通院先を変更しないなどの対応は続けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを好まれる方が多く、各々の距離感の中で関係性を構築されている方が多い。過不足なく支援することで、トラブルなく関係性の継続が図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された際に、直接ご本人についての支援を行ったことはないが、市役所等の申請や手続きについて、相談に応じ、支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いに気づくためには、本人と直接会話することが大切であることをスタッフ間で共有し、言動や表情などから読み取れるように努めている。また、会話が難しい方の把握に関しては、ご家族などからの聞き取りも大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに、ご家族からの聞き取りや、担当ケアマネジャー等に情報やエピソード等の提供をして頂ける様に依頼し、その方の人となり把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの状況や永山亭での生活の把握は、ピンポイントの支援を行う上でも大切であり、共に過ごす中でふとした場面等の言動や表情などから把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援経過やセンター方式などの記入を全職員で行い、気づきのポイントを共有することにより、日々のケアの中で気づき生まれ、申し送り時等に自動的に意見が出ている。その意見を試み試みで反映し、結果を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、ケアプランを反映した記入内容となるように共有し、実践している。ケアプランの見直し時には、アセスメント時に介護記録、支援経過、センター方式などを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは、お互いに合意できる内容とし、ある程度の柔軟性の下、出来る事と出来ない事を明確にすることで、齟齬がなくなり、良好な関係性の構築が図れると考え、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターが発行している地域資源マップなどを活用しながら、情報収集に努めている。また、地域の事業所などの集まりに参加し、必要な状況があれば、相談できる関係性の構築に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が継続できる方については、出来るだけ今までの主治医に診て頂ける様に支援している。また、受診が困難な状況になっても、往診が受けられるように体制を敷いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、健康観察や健康相談、受診への付き添いや往診医とのやり取りを行っている。また、夜間帯の緊急時などにも対応できる状況を構築し、入居者・職員が安心できる体制を敷いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時・退院時には相談員や看護師と連絡を密にとり、状況や情報の共有を図っている。また、退院時の受け入れられる状態についてご家族と共有し、病院に伝える事で、退院に対しての齟齬が起らないように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期についてマニュアルなどを用いて説明するが、状況の変化毎に心情や環境が変わると考え、都度聞き取りを行いながら、丁寧かつ齟齬が無いように支援している。また、重度化した際に、今後考えられる状況について、文章を取り交わし、情報の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルの整備や救急車を呼ぶ目安を共有するなどし、体制の構築や実際に起こった場合の責任の所在の明確化・対応の明確化を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した避難訓練のほか、自然災害を想定した訓練を行い、マニュアルを作成し実際に起こった場合に備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人スタッフ研修やミーティングの際の研修などで尊厳や権利についての内容を共有し、共に生活する者として尊重できるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定して頂ける環境を整備し、見守りを行いながら、健在的・潜在的な希望の把握に努めている。また、選択すること自体がストレスになってしまう方については、表情の観察などを行い、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何を思って、何が伝えたくて、どうして欲しいのかを共に過ごす中で把握し、個々のペースに応じた生活を送って頂ける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コミュニケーションがとれる活発にとれる時から関わりが持てる方と重度化してから関わりを持つ方では対応は変わるが、本人やご家族から把握出来たことを活かしながら支援している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、自力摂取できることもおいしく食事が摂れる事条件として必須であると考え、共有し、過不足の無い支援の中で、出来るだけ自力摂取して頂ける様に支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を摂る事は、生命維持活動だけの行為ではなく、楽しみや快さにもつながる行為であることや、おいしく食事をするためには、出来るだけ自力での摂取が望ましい事を共有し、対応している。また、採血結果などから、栄養状態の把握・状況に応じた対応について、主治医との相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には、口腔保清の他、乾燥などにも注意しながら、適宜用具や用品を検討し支援を行っている。また、嫌がられる方には、無理強いせず、訪問歯科医師等に助言を求めながら支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のペースに応じた時間でトイレ誘導を行っているほか、おむつの使用については、一方的なものとは捉えず、状況が改善できた時には、布の下着へ変更する等の検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状況やリズムに合わせながら、日中帯の活動量の見直し、乳製品をとって頂くなどの支援を行いながら、主治医とも相談し、適宜緩下剤などの調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員の配置上、毎日好きな時間に入浴に対応することは困難だが、決まった入浴日や時間の中で、一人ひとりのペースに合わせた入浴が出来るように支援している。また、タイミングが合わなかった時には、日にちをずらすなどの対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に消灯などの時間は設けず、自室にて思いのまま生活して頂ける様に配慮している。また、巡回時にも、覗かれるのが嫌な方については、音を聞くなどし、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、処方簿を目に付くところに配置し、日ごろから目が通せるようにしている。また、薬の変更などがあつた際には、申し送りノートに記入し、申し送る事で、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は、誰かが創出する物ではなく、自ら作り選択することが大切であることを周知し、対応している。また、外出が少しずつできるようになってきている為、気分転換に活かしている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望があった際には、外出できるように配慮しており、付き添いにて外出して頂いている。また、ご家族からの要望があった際にも、最近の様子の共有を図り、気を付けて頂くこと等を伝えるなど、支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行っていたときは、支払いなどをして頂いていた。現在、希望される方がおらず、一緒に買い物に出かけることはないが、買い物の希望などがあった際は、買って来たものとレシートを渡し、お金の支払いを受ける等している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には対応している。また、年賀状を一緒に書き、返信があった年賀状を見て喜ばれたことがあった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快い・不快等の刺激の種類や設え等について、接遇の研修を通して共有を図り、環境の整備に努めている。また、行事の後には、写真を飾る、季節が感じられるような飾りつけを行うなど、生活の場と思えるように配慮している。ソファの配置を工夫し、テレビに興味のない方でも過ごしやすい環境を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいすを配置し、好きな居場所を自ら選んで頂ける様に配慮している。また、気の合う入居者同士が集まり、会話している様子が日常的にみられている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は、ご家族協力の下、なるべく自宅の再現や馴染の物を配置して頂くなどし、環境の整備を行っている。また、身体状況に応じ、過ごしやすい環境は変化する事を共有し、都度検討を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	支援の過不足が無いように配慮し、行動の細分化を行いながら、ピンポイントの支援が行えるように研修などを通じて共有を図ったうえで、環境の整備や見直しを適宜行っている。		